

第七十三回
帝國議會
貴族院

重要礦物増産法案特別委員會會議事速記録第七號

昭和十三年三月十七日(木曜日)午後一時
四十八分開會

○委員長(伯爵副島逕正君) 是ヨリ開會致

シマス、前回ニ引續イテ質問ヲ願ヒマス

○子爵立花種忠君 私ハ三點バカリニ付テ

質疑ヲ致スノデアリマスガ、御承知ノ通り、

全クノ素人デ甚ダ妙ナ質問ヲ申上ゲルカモ

知リマセスガ、從ッテ政府ノ御方、又ハ専門

ノ方カラ聞カレタラ、失笑ヲ禁ジ得ナイコ

トガアルカモ知レマセスガ、何卒懇切ニ蒙

ヲ啓イテ戴キマスレバ仕合ト存ジマス、第

一點ハ、昨十六日杉溪男爵ガ御質疑ニナツタ

コトト多少重複スルノデハナイカト思ヒマス

ルガ、一應私ハ伺ヒタイト思ヒマス、液體

燃料殊ニ其ノ石油ト云フモノニ付キマシテ

ハ、遠ク明治四十年代カラ兩院ニ於テ、屢

政府ニ對シテ質問ラシ、建議ラシテアツタコ

トハ、私ガ大正三年ニ議員ニナリマシテカラ、

ソレヲ初メテ知ツタノデアリマスガ、併シ

ナガラソレ以來數年間見テ居リマシタガ、

政府トシテ何等ノ爲ス所ナシト言ッテハ少シ

言葉ガ過ギマスルガ、餘リ御施設ガナイヤ

ウデアリマスルカラ、甚ダ遺憾ニ存ジマシ

タノデ、實ハ記憶ヲ辿ッテ見マス、昭和四

五年頃、第五十七回カ五十八回ノ議會頃デ

ヤナイカト、ツイ調べル時間ガナカッタモノ

デスカラ、サウ考ヘテ居リマスガ、其ノ豫

算委員會デモ、ソレカラ又分科會ニ於キマ

シテモ、大藏大臣ニモ御質問シ、色々伺ッテ

見タノデアリマス、尙故海軍大將加藤定吉

男爵デスカ、非常ニ此ノコトヲ御憂慮ニナ

リマシテ、分科會等ニ於テモ希望條件ヲ附

ケタリナンカシテ居ッタノデス、併シナガラ

是亦御承知ノ通り、餘リ其ノ後ニ於テ大シ

ク御施設ガナイ、其ノ後坂本男爵ガ熱心ニ

之ヲ御提唱ニナリマシテ、今日ニ至ルマデ

我々ハ敬服スル位ニ、政府ニ對シテ、盛ニ

石油ノコトニ付テ御論ジニナツテ居ラレマ

ス、併シナガラ政府ノ施設ヲ見マス、相

變ラズ年額十何萬圓トカノ小サナモノデア

リマシテ、其ノ小サナモノデ僅カニ油田ノ

調査ヲスルトカ、或ハ民間業者ニ對シテ僅

少ノ補助金ヲ支給スル、サウシテ採油ニ當

ラセテ居ルト云フヤウナ状態デアリマシテ、

議員ノ方ノ所期スル所ト頗ル距リガ遠イノ

デアリマス、無論國家財政上ノ都合モアリ

マスルカラ、一面カラ見レバ御無理モナイ

ト思フノデアリマスケレドモ、サウ云フ現狀

ニナツテ居リマスノデ、遂ニ昨年ノ夏ノ議會

ニ於テ、人造石油製造業法案竝ニ帝國燃料

興業株式會社法案ト云フモノガ提出サレタ

時ニ、衆議院ニ於テハ附帶條件ヲ附ケテ居

リマス、又八年六月ノ貴族院ニ於キマシテ

ハ、本會議ニ於テ「燃料問題ハ時局ニ鑑ミ國

策上一日モ忽セニスルコト能ハズ、政府ハ

單リ人造石油事業ノ獎勵ニ止マラズ、此ノ

際更ニ力ヲ天然資源ノ開發ニ致シ、速ニ確乎

タル自給自足ノ燃料國策ヲ樹立スベシ、」斯

ウ云フ建議案ヲ出シマシテ、而モ全會一致

デ通過シテ居ルノデアリマス、其ノ時ニ吉

野商工大臣閣下ハ、建議ノ趣旨ニ付テハ政

府モ全然同意アル、今後國ノ内外ニ互ッ

テ、石油天然資源開發ノ助成ニ付テハ、一

段ノ努力ヲ致ス考デアル、斯ウ御答ニナツテ

イラッシャイマス、然ルニ昭和十三年度ノ國

内油田試掘獎勵金ノ豫算額ハ、漸ク二百萬圓

ソコラノモノデアルト私ハ存ジテ居リマスガ、

要スルニ從來姑息千萬ナ試掘獎勵金ノ制度

ヲ、矢張り是ハ踏襲シタニ過ギナイト云フ

ヤウニモ考ヘラレル、國內石油資源開發ノ

前提デアリマス所ノ試掘ト云フモノガ大々

的ニマダ行ハレテ居ライノヲ、私共ハ非

常ニ遺憾ニ思ッテ居リマス、斯ウ云フ風ニ、

此ノ重大時局ニ當リマシテモ斯ウ云フコト

ヲ繰返シテ居リマシテハ、何時ノ時カ何億

ト云フ金ガ外ニ流レルノヲ止メ得ルデアリ

マセウカ、既ニ時局ノ影響ヲ受ケマシテ、

現在ハ三億五千萬圓カラ四億圓ニナルノデ

ヤナイカト想像シテ居リマスガ、此ノ七億

七千萬圓ノ人造石油事業ノミヲ以テ我が國

ノ燃料ノ自給自足ガ十分出來ルト思フノハ、

少シ早計ニ過ギルノデヤナイカ、間違ヒデ

アルノデヤナイカ、即チ此ノ事業ハ五箇年

後ニ於テ僅カニ百五十萬「トン」ノ重油、揮

發油ガ出來ルノデアラウト想像致シマス、

而シテ我が國ノ對外石油代金ノ支拂ト云フ

モノハ、最初ハ千五百萬圓カラ二千萬圓位

デアリマシタノガ、年々五六千萬圓位ツツ

累増シテ居ルヤウニ想像致シテ居リマスガ、

其ノ想像カラ參リマス、先程私ガ申シタ

通り本年度アタリハ三億デハ上ガラナイノ

デハナイカ、ドウシテモ三億五千萬圓以上

デヤナイカト云フヤウニ目ノ子算デ考ヘテ

居リマス、ソレデ、石油資源開發法ノ第二

條ニハ「試掘助成金ヲ交付スルコトヲ得」ト

アリマス、此ノ試掘助成金ヲ出スト云フ位

ノコトデ、此ノ大問題ガ果シテ解決ガ出來ルノデアアルカ、無イヨリハ無論優リマスガ、能ク俗ニ申スト云ツテハ申譯アリマセヌガ、今カラデモ遅クハナイト云フコトヲ申シマス、實ハ私カラ申スト、今カラデハ多少遅イノデハナイカト云フ風ナ感ジヲ深く持ッテ居リマス、ソコデ、之ヲ引括メテ御質疑ヲ致スノハ、政府ハ此ノ重大案件ヲ解決スル爲ニ、之ヲ國策トシテ國家自ラガ御直營ニナルコトノ御考ハアリマセヌカ、先ツソレダケ御答ヲ願ヒマス

○國務大臣(吉野信次君) 御話ノ點ハ一々

御尤ゴザイマシテ、現在ノ施設ヲ以テ私共マダ十分デアルトハ考ヘテ居リマセヌ、出來ルダケ將來力ヲ盡シタイト思ッテ居リマス、唯其ノ場合ニ國ガ全部國營トシテヤツラドウカト云フ御考ニ付キマシテモ、是ハ一ツノ矢張り御意見デアリ、又一ツノヤリ方デヤナイカト云フ風ニ私共考ヘルノデアリマスケレドモ、何分ニモ現在ノ鑛業權ノ制度ノ下ニ於キマシテハ、矢張り、此ノ試掘權ナリ探掘權ナリト云フモノヲ總テ國デ取上ゲルト云フ制度デナク、矢張り民間ノ權利ト云フ風ニシテ居ルノデアリマス、ソレヲ石油ニ限ッテ全部國デ收用スルト云フコトニ付キマシテハ、

相當又鑛業權ト云フモノノ根本ノ本質ニ關シマシテ考ヘナケレバナナイ點モアラウト存ジマス、ソレカラ又實際問題ト致シマシテモ、現在御承知ノ通りニ石油ノ探掘ヲヤツテ居リマスル業者ハ、サウ澤山ハゴザイマセヌノデ、ソレ等ノモノガソレハ長イ經驗ニ依ッテ、經驗技術上ノ何ト申シマスカ、知識經驗ト云フモノヲ持ッテ居ルノデアリマスカラ、矢張りサウ云フ業者ト云フモノニ對シテ、政府ガ出來ルダケノコトヲシテヤラセルト云フコトガ目的ヲ達スル上ニ於テ一番適切デハナイカ、ソコデ御趣旨ニ付

キマシテハ、私共モサウ云フ感ジガナイデモアリマセヌカラ、多分前同等ニ於キマシテ、政府委員カラモ申上ゲタト存ジマスガ、試掘助成金ト云フモノノ率ニ付キマシテハ、從來ハ、昔ハ三分ノ一、近來ハ二分ノ一段々増シテ參ツタノデアリマスケレドモ、其ノ率ナドモ、必要ニ依ッテハ或ハ全額政府デ助成金ヲ出シテモ宜イト云フヤウナ建前デアリタイト思ッテ居リマス、唯十三年度ノ豫算ニハ百七十何萬圓ト云フノデ、十分ナ助成金ノ豫算ガ財政等ノ都合ニ依ッテ組ンデ居リマセヌデスガ、十四年度以降ニ於キマシテハ、繼續費ト云フ豫算ノ取り方デハゴザイマセヌガ、財政當局トモ十分其

ノ點ニ付キマシテ諒解ヲ得テ居ル譯デアリマスカラ、出來ルダケノコトヲ致シタイ、而シテ一方油田質ノ實情ノ調査ヲ進メマシテ、更ニ有望ナル油田ガ非常ニ多イト云フコトデアレバ、勿論從來ノ計畫ニ囚ハレズニ、此ノ試掘助成金ト云フモノモ相當額増加致シタイ、斯ウ考ヘテ居ルノデアリマス、只今ハサウ云フ譯デゴザイマスカラ、只今ノ所デハ總テ此ノ事業ヲ國營ニシテ行フト云フマデノコトハ、モウ少シ色々ナ問題ヲ考慮シナケレバナナイノデヤナイカト云フ風ニ考ヘテ居リマス

○子爵立花種忠君 能ク御趣旨ハ分リマシ

タ、今大藏省ノ政務次官ガ居ラレタト思ヒマシテ、大藏省ニ聽キタイト思ッテ居タノデスガ、商工省ノ此ノ豫算ヲ、是ダケデモ御取リニナツタ御苦心ノ存スル所ハ不肖ナガラ能ク分ッテ居リマス、今マデドウモ大藏省ガナカノ金ヲ出サナイト云フコトハ私共知ッテ居ルノデアリマス、何卒斯ウ云フ重大時局ニ當リマシテハ、非常ニ金ガ要ル時デアリマスガ、一方又外ニ三億カラノ金ガ流レテシマウト云フコトヲ考ヘタナラバ、國內ニ向ッテ相當ノ金ヲ下ス方ガ寧ろ國家經濟上宜イデヤナイカ、下シタ金ハ國內ニア

省デハモウ少シ考ヘテ貰ハナケレバナラヌト云フヤウナコトヲ考ヘテ居リマス、是ハ今大藏省ガ居ラレマセヌカラ止メテ置キマス、ソレカラ第二ハ御承知ノ通り石油ト云フモノハ國家ノ血液デアッテ、此ノ血液ガナケレバ、丁度人間ガ生キテ居ラレナイ如ク、國家ノ存立ガ出來ナイ、デ歐洲大戰ノ末期ニ於テデシタカ、佛國ノ總司令官ガ矢張りサウ云フコトヲ言ッテ居タヤウデアリマス、誠ニ其ノ通りデアルト思ヒマス、米國ハ此ノ頂戴シマシタ表ヲ見マシテモ、世界第一ノ產油國デアリマスガ、併シ是ハ偶然ニア、ナツタノデハナイノデアリマシテ、要スル

ニ非常ナ大資本ヲ下シタ結果ニ外ナラナイノデアリマス、彼米國ハ此ノ石油事業ヲ開始シテ以來、大正七年カ八年頃ト思ヒマシガ、今マデニ既ニ無慮六十億バカリノ金ヲ出シテ居ルノデアリハセヌカト存ジマスガ、其ノ結果ガ三萬石デスカ、リットルニ換算出來マセヌガ、三億石バカリノ產油ヲ得テ居リマシタ、併シ世界大戰ガ始ッテ見マシテ、ドウモ此ノ位デハ是ハイカスト云フコトデ、何トカシテ此ノ血液タル石油ヲモット出サナケレバイカスト云フコトヲ痛感シマシタ結果、大正八年ニ一箇年間ニ勃興シタ新設ノ石油會社ハ、確力千三百餘ト聞イテ

居リマス、而シテ其ノ資本ハ六十五億圓デスカ、引續キ十三年ニ至ルマデ、六箇年間ニ年額二百三十三億八千餘萬圓ト云フ驚クベキ資本ヲ石油事業者ガ、サウ云フ多クノ資本ノ石油事業關係業者ガ起リマシテ、其ノ中實際投資シタモノガ百二十億圓デアリマシテ、今マデハ多ク山ノ方ニ手ヲ著ケテ居タモノヲ、平原ノ油田ノ開發ニ努力シタ結果ガ、一躍從來ノ產油量ニ二倍スル所ノ六億五千餘萬石ト云フ大量ノ產油量ニ至ッタノデアリマス、假ニ之ヲ一石五圓ト致シマシテモ、一箇年ノ產油高ハ約三十二億圓ニナリマセウ、然ルニ我ガ國ノ石油事業ト云フモノハ、現在モ誠ニ幼稚デアリマシテ、其ノ事業資金ヲ調べテ見マス、漸ク一億五千萬圓カソコラデアリマセウ、デアアルカラ其ノ一箇年ノ產油量ヲ見マスト、米國ノ產油量ノ一日分ニシカ當ラナイト云フ貧弱サデアリマス、而モ現下ノ此ノ支那ノ事變カラ見マシテ、今後はガドウナリマス、如何ニ是ガ終結ヲ告ゲタト雖モ、其ノ後ニ來ル所ノモノハ、實ニ我ガ國ガ東洋ノ盟主トシテ立ッテ行カナケレバナラス重大ナル時ニアリマス、從ッテ益、困難ナコトガ多ク起ッテ來ルト云フコトハ豫想スルニ難カラナイノデアリマス、此ノ國歩艱難

ノ時デアリマスガ、如何ニ國歩ガ艱難デアリマシテモ、我ガ國ハ飽マデモ此ノ「アジア」ノ指導者タル、「アジア」ノ指導勢力ヲ確保シテ、世界ノ平和、人類ノ福祉ニ盡瘁シナケレバナラス所ノ大ナル使命ヲ課セラレテ居ル、今度ノ戰爭ニ於テモ、實ニ我ガ將兵ノ勇敢無比ナル、壓倒的ニ勝利ヲ得テ居ルノデアリマスガ、實ニ感謝感激ニ堪ヘナイノデアリマス、併シナガラ又一面斯ウセシメタノニモ、矢張り油ト云フモノハ限リガアルノデアリマス、如何ニ強イ軍艦ガアリマシテモ油ガナケレバ仕方ガナイシ、陸軍ノ方デモ如何ニ立派ナ戰車其ノ外ノモノガアリマシテモ、油ガナケレバ動カセス、斯ウ云フ實情ニ直面シテ見マス、此ノ石油ト云フモノガ如何ニ大切デアアルカ、是ハ無論戰爭ダケデアリマスガ、又饑ッテ國內ノ產業カラ考ヘマシテモ、石油ト云フモノガ實ニ大切ナモノデアルト云フコトハ誰モガ能ク承知シテ居ルノデアリマス、斯クノ如ク日本ガ今後東亞ノ盟主トシテ起タナケレバナラナイ、斯ウ云フ大ナル使命ヲ有ッテ居ル以上、其ノ國家ノ活動ノ源泉タル所ノ石油ト云フモノニ付テハ、此ノ際此ノ秋ニ於テ、一大決心ヲ以テヤラナカタナラバ、遂ニ此ノ使命ヲ果シ得ナイ、果シ得ナイ結

果ト云フモノハドウナラウカト云フコトハ、口ニハ言ヒタクナイノデアリマスガ、實ニ恐ルベキモノト私ハ考ヘマス、飽迄モ其ノ目的ヲ達シ、其ノ使命ニ向ッテ行カナケレバナラスノデアリマス、日本ハ抗日支那ヲ徹底的ニヤッテ居リマスガ、又一方獨伊等ト防共協定ヲ結ンデ進ンデ居リマスケレドモ、併シナガラ萬一ノ場合ヲ考ヘマスト、「ソ」聯、英國等ガ手ヲ握ッテ油ヲ賣ラヌトシタナラバ、如何ニ日本人強シト雖モドウモ斯ウモナラナイノデヤナイカ、斯ウ私ハ考ヘマス、而モ協定ヲ結ンデ居ル此ノ三國ハ御互ニ油ハナイ國デアアル、敵ニ廻リ得ルト思フ所ノモノハ油ヲ盛ニ持ッテ居ルト、斯ウ云フ實ニ矛盾シタ甚ダ悲シムベキ状態ニアルノデアリマス、斯ウ云フ危機ヲ考ヘタ時ニ於テ、當局ノ御苦痛ノアル所ハ能ク御察シ致シマスケレドモ、ドウモ只今迄ノ御答辯等ニ於テハ甚ダ物足ラナイヤウニ考ヘマス、殊ニ英國ノ如キハ此ノ石油ヲ確保スル爲ニ、「メキシコ」ノ石油事業ニ乗り出シテ之ヲ取りマシタガ、實ニ其ノ機敏、巧妙ナル外交ニハ驚嘆スルト同時ニ感嘆ス外ハナイノデアリマス、サウカト云ッテ日本ガ今はカラ起ッテ外國ノ十分ナ石油ノアル所ヲ取ラウト云フコトハ是ハ迎モ出來マス

マイ、出來ナイノガ當然ト思ヒマス、ソレ迄ハ申シマセヌガ、結局我ガ國ノ今迄ノ燃料國策ト云フモノガ人造石油ノ方ニ重キヲ置クカ、國內ノ此ノ石油ノ資源開發ノ方ニ重點ヲ置クカ、或ハ此ノ兩者ヲ如何ニ調合、配合シテ行カト云フ所ガ根本ノ問題デヤナイカト、斯ウ云フ風ニ考ヘマス、今迄ノ調べニ依ルト油ガ出ルカ出ナイカ分リマセヌガ、地上ノ調査ガ多イノデアリマスカラ無理モナイノデアリマスガ、ソレデモ相當ノ大キナ面積、聞ク所ニ依ルト五六十億坪ト云フコトヲ聞イテ居リマスガ、果シテドウデスカ、相當ノ大キナモノヲ有ッテ居リマスシ、又之ヲ五六十本「ボーリング」シテ見マシテモ、一本カ二本シカ出ナイノデアリマシテ、ドウモ全然出ナイト云フコトデハナクテ、相當ニ有望ナモノガアルト云フコトハ見當ガ付イテ居ルト思ヒマス、然ラバ此ノ際ニ政府トシテハ、此ノ非常時ニ非常手段トシテ外國ニ流レ出ス所ノ、多額ノ金貨ノ流出ヲ防止スル意味ニ於テモデアリマスガ、國內ノ此ノ石油事業ニ對スル所ノ租稅トカ其ノ他ノヤウナモノヲ免除シマシテ、此ノ事業ノ勃興ニ努力スルト云フコトガ政府當局トシテ國家ニ御貢獻ニナル所ノ一大責任デモアルノデヤナイカ、即チ言換ヘテ

見マス、金貨ノ流出ヲ止メ得ル迄斯ウ云フ租税等ニ付テノ負擔ヲ掛ケナイデ、民間ニ掛ケヌデ、サウシテ此ノ事業ノ勃興ヲ圖ルト云フコトガ大切ナル義務デハナイカ、斯ウ云フ風ニ考ヘマス、故ニソコデ政府ハ相變ラズ之ニ對シテ矢張り、サウ云フケレドモ免稅スルコトハ出來ナイ、又今迄ノ獎勵金トシテヤッタモノハ、此ノ規定ニ依ッテ三割ニ相當スル金額ヲ返還セシメル、又今度ノ法案ニ於テ百分ノ二以內ニ相當スル金額ヲ納付セシメルト云フコトハドウシテモヤラナケレバナラスノデアリマセウガ、斯ウ云フコトヲ總テ廢止シテ、此ノ石油事業ノ勃興ニ盡サレルト云フ御考ハナイノデアリマセウカ、ソレヲ伺ヒタイ

○國務大臣(吉野信次君) 只今ノ御尋ニ對シマシテハ、或ハ私が御答辯申上ゲルヨリモ、其ノ方ノ主管ノ方カラ申上ゲタ方ガ宜シイカトモ存ジマスケレドモ、大體私ノ承知致シテ居リマスル所デハ、必要ニ應ジマシテ、或事業ヲ助成致シマス時ニ免稅ト云フ制度ヲ取ツテ居リマスガ、大體其ノ場合ニハ新ラシク其ノ事業ト云フモノヲ始メマシタモノニ對シマシテ、其ノ事業開始ノ年及ビソレカラ何年ノ間ト云フコトガ、マア從來ノ法制ニナッテ居ルヤウデアリマス、ソレ

デ此ノ石油業ニ對シマシテモ、新ラシクサウ云フ石油事業ヲ始メタ者ニ對シマシテハ、サウ云フコトヲ考慮シテモ宜シイカト思ヒマスケレドモ、唯既設會社ガ新ラシイ油田ヲ開イクト云フ場合ニハ、是ハヤッデアレナイコトハゴザイマセスケレドモ、此ノ計算上既設ノモノト新設ノモノトノ間ニ、課稅ヲ致シマス時ニ一方ハ課稅サレ、一方ハ免稅サレルト云フヤウナコトニ付キマシテ、多少技術上ノ困難モ伴フ譯デアリマスノデ、ソレデ此ノ石油ニ對シマシテハ、試掘獎勵金ト云フ制度ヲ設ケテ、其ノ試掘獎勵金ト云フモノヲ先程モ申上ゲマス通り、來年度ハ原則トシテ三分ノ二ト云フモノヲ政府カラ助成スル、場合ニ依ッテハ金額ヲヤッテモ宜シイト云フヤウナ風ニ、其ノ方デ幾ラカ從來ノ試掘助成施設ト云フモノヨリモ奮發シタト云フ積リデゴザイマス、併シ御所見ノ點ハ是ハ御尤デアリマシテ、多々益辯ズルノデアリマスカラ、若シ財務當局ノ方ニ於テ、此ノ稅ノ從來ノ行政ノ何ト申シマスカ、傳統ト申シマスカ、サウ云フヤウナモノニ照シマシテ、若シサウ云フコトガヤル餘地ガアルノダト云フコトデアレバ、産業官廳トシテハ、サウ云フコトヲヤッテ戴クコトハ大變結構デヤナイカト云フ風ニ考

ヘテ居リマス、ソレカラ尙御述ニナリマシタ納付ノ點デゴザイマスガ、是モ利益ノナイモノマデ必ラズ納付セシムルト云フ考ハゴザイマセヌノデ、百分ノ二以內、斯ウ云フ風ナ大體ノ標準ヲ置イテ居リマシテ、斯ウ云フ風ナ負擔ニ堪ヘナイ者カラハ取ル考ハゴザイマセヌ、其ノ場合ニハ納付金ノ率モ下ゲルコトガ出來マス、マア儲タ場合ト云フ時ニ、唯公平ノ觀念カラ見テ、幾部分政府ノ方ヘ納付セシメル、斯ウ云フダケノ規定デゴザイマスカラ、其ノ方ノ御尋ノ點ハ、此ノ條文ト云フモノハ是ハ釘附ニ、百分ノ二ヲ必ズ取ルシタト云フモノデゴザイマセスカラ、此ノ條文ノ運用ニ依リマシテ、業者ニ適當ナ負擔ヲ掛ケナイヤウニ致シタイ、斯ウ考ヘテ居リマス

○子爵立花種忠君 少シ申上ゲタイノデアリマスガ、是ヨリ申シマスト議論ニナリマスカラ、私ハ差控ヘマスガ、是デ止メテ置キマシテ、其ノ次ハ簡單ナコトデアリマシガ、私モマダ讀シテ居リマセヌデ妙ナ御質問ヲ致シテ、初メ申シマシタヤウニ御叱正ヲ請フカモ知レマセヌ、石油試掘獎勵金交付規則デアリマスガ、ソレノ七條ト、ソレカラ今度ノ本案ノ第三條トノ關係ハドウナリマスカ、チヨット見タ所デ分ラナクナッテ

シマツクノデ、少シ教ヘテ戴キタイ

○政府委員(竹内可吉君) 此ノ石油試掘獎勵金交付規則、是ハ商工省令デ出テ居リマスガ、此ノ七條ノ規定ハ、獎勵金ノ交付ヲ受ケマシタ者ニ、油ガ出マシタ場合ニ、其ノ井戸カラ出ル油ヲ標準ニ致シテ、ソレノ三割ニ相當スル金額ヲ返還セシメルト云フコトデアリマス、今回ノ法案ハ獎勵金ヲ受ケテ居ル人ノミナラズ、地質構造ノ上カラ同ジ油田デアリマシタ場合ニ、是ガ隣リノ鑛區ニマデ納付金ヲ徵收シ得ルト云フコトニ致シマシタ點ニ、違ヒガアルノデアリマス、率ハ只今大臣ヨリ述べマシタ通り百分ノ二以內デアリマスルガ、油田ガ一ツデ、同一油田デアリマス場合ニ、其ノ隣接鑛區カラモ之ヲ徵收シ得ル、是ハ現在ノ制度ナラバ、所謂獎勵金ノ何ト申シマスルカ、指令條件ト申シマスカ、サウ云フコトデヤル範圍ノコトデアリマスノデ、商工省令デ出來テ居リマスケレドモ、今回ヤラウト云フ趣旨ノコトハ法律デナケレバ出來ナイコトデアリマスノデ、法律ニ明カニシタ譯デアリマス

○子爵立花種忠君 サウスルト詰リ此ノ第七條ノ獎勵金交付ヲスル此ノ規則ト云フモノハ、是ハ其ノ儘御存續ニナッテ居ル譯デ

來ノ法制ニナッテ居ルヤウデアリマス、ソレ

ゴザイマスネ

○政府委員(竹内可吉君) 私説明ニ大事ナ

點ヲ落シマシタガ、此ノ今回ノ法律ガ御協
賛ヲ經マシテ公布實施セラレマシタナラバ、
現在ノ交付規則ハ是ハ全然廢メルノデゴザ
イマス

○子爵立花種忠君 分リマシタ、何ダカド

ウモ妙ナコンガラカッテ居ルヤウニ見エマ
シタ、是ガ出來タナラ、コチヲ廢シテ宜
インヂヤナイカト思ッテ居リマシタ、私ノ伺
ヒ方モ惡カッタカモ知レマセスガ、……能ク
分リマシタ、私ハモウアリマセス

○男爵杉溪由言君 私ノ第一點ニ御伺ヒシ

タイ質問ハ、此ノ前井上子爵ガチョット御質
問ニナリマシタノト大體似寄ッテ居リマス
ガ、一應私トシテ政府ニ御伺ヒ致シテ置キ
タイノデゴザイマスガ、「第二條ニ試掘助成
金ヲ交付スルコトヲ得」トゴザイマシテ、第
八條ノ末項ニ「試掘助成金ヲ交付ス」トゴザ
イマスガ、此ノ二條ノ方ハ、石油鑛業者ノ方
カラ助成金ノ下付申請ヲシテ來タ場合ニ、
政府ノ方デ御取調ニナリマシテ、助成金ヲ
出ス場合ガアルト云フコトデアラウト私ハ
思ヒマス、ソレカラ第八條ノ方ハ、政府ノ
方カラ積極的ニ御命令ニナツタ場合ヲ指シ
テ居ルト私ハ解釋致シマスガ、ソレデ宜シ

ウゴザイマスカ、ソレカラ此ノ兩者ノ試掘
助成金ノ補助率ヲ念ノ爲ニ伺ヒタイノデゴ
ザイマスガ……

○政府委員(竹内可吉君) 第二條ニ依リマ

スル助成金ハ、申請ニ依ッテ是ハ交付スルノ
デアリマス、第八條ハ非常ニ有望ナル油田
ガ、當業者ノ申請ヲ待ッテハ開發セラレナイ
ト云フヤウナ場合ニ、政府ガ此ノ開發ヲ命
ジマシタ場合ニ交付スルノデゴザイマス、
一ツ落チテ居リマシタ、其ノ交付ノ率ハ大
體八條ニ依ッテ命ジマス場合ハ、多クハ其ノ
石油鑛業者ガ資力ガ乏シイト云フコトガ大
體多イノデハナイカト思フノデアリマシテ、
從ッテ八條ニ依リマシテハ試掘費ノ全額ヲ
交付スル豫定デ居リマス、第二條ノ場合ニ
於キマシテハ、原則トシマシテハ試掘費ノ
三分ノ二ヲ交付致シマスケレドモ、資力ノ
非常ニ乏シクテ其ノ一部分ノ負擔モ過重デ
アラウト云フヤウナ場合ニハ、全額迄モ行
キ得ルヤウニ致シテ居リマス

○男爵杉溪由言君 政府ハ此ノ十三年度ノ

試掘助成金ヲ三分ノ二ヲ、伺ヒマスト補助
スルト云フコトデゴザイマスガ、其ノ三分
ノ二ト云フノハ掘リ賃バカリデゴザイマス
カ、又機械、器具、鐵管等モ入ッテノコトデ
ゴザイマセウカ、此ノ點ヲ伺ヒマス

○政府委員(竹内可吉君) 全部試掘ニ要ス

ル經費ト認メラレマスルモノヲ包含シテデ
ゴザイマス

○男爵杉溪由言君 此ノ今全額ノ三分ノ二

ヲ補助サレルト云フコトデゴザイマスガ、
本年度ノ既定計畫ハ、確カ七十萬圓ノ豫定
デゴザイマシタノヲ、今回ソレヲ増額シテ
百七十萬圓ニ御改メニナツタヤウニ存ジテ
居リマス、此ノ百七十萬圓ノ助成金デ假ニ
一本平均ガ三十萬圓ト致シマスルト、百七
十萬圓デハ八本シカ井戸ガ掘レナイ計算ニ
ナルノデハナイカ、又平均一本二十萬圓デ
井戸ヲ掘ルトスルト、十二本キリ掘レナイ
ノデハナイカ、又假リニ一本平均十五萬圓
ト改メマスレバ十六本キリ掘レナイ計算ト
ナルノデハナイカト思ヒマスガ、政府ハ先
般三十五本ノ井戸ヲ掘ラレルト云フコトラ
仰シヤッテ居ラレマスガ、ドウ云フ式ニ依ッ
テ何本宛掘ラレル御計算デゴザイマスガ、
若シ御分リデゴザイマシタラ承リタイト思
ヒマス

○政府委員(竹内可吉君) 御承知ノ通り試

掘ヲ致シマスノニ色々ノ式ガゴザイマシテ、
例ヘバ相當深イ井戸ニナリマスト云フト、
只今仰セニナリマシタヤウナ、多額ナ試掘
費ヲ要スルノデゴザイマスケレドモ、比較

的淺イ所デアリマスト云フト、所謂上總掘

ト云フヤウナモノデハ、只今仰セニナリマ
シタヤウナ多額ノ經費ガ要ラナイノデゴザ
イマス、ソレデハ井戸ノ選定ニ依リマシ
テ經費ガ違ッテ來ルノデゴザイマスガ、我々
ノ見テ居リマスル所デハ、或地方ニ於キマ
シテハ可ナリ淺イ所謂淺層ノ所ニ掘ルト云
フヤウナ所ガアルト思ッテ居ルノデゴザイ
マス、從ッテサウ云フモノヲ豫定ヲ致シマシ
テ、大體斯ウ云フモノヲ何本位ト云フ豫定
シタモノガ實ハアルノデアリマス、ソレニ
依リマシテ三十五本ノ試掘ヲ致シマシテモ、
百七十萬圓見當ノ豫算デ、原則三分ノ二ノ
補助金ヲ交付シ得ルモノト考ヘテ居リマス

○男爵杉溪由言君 サウ致シマス、今御

話ノ上總掘ト云フノガ一番多クテ、其ノ外
ノ「ロータリー」式トカ、或ハ網掘式ト云フ
モノハ極メテ少ク御見込ニナツテ居ルノデ
ゴザイマセウカ

○政府委員(竹内可吉君) 大體此ノ豫算ノ

基礎ニナリマシタノヲ申上ゲマス、「ロータ
リー」式ニ依リマスルモノガ十三、ソレカラ
網式ニ依リマスルモノガ二十二デゴザイマ
ス、合計シマシテ三十五デゴザイマス
○男爵杉溪由言君 只今承レバ「ロータリ
ー」式ガ十三ノ御豫定ダサウデスガ、其ノ十

三八一本三十萬圓モ掛ラナイノデゴザイマ
ウカ

○政府委員(竹内可吉君)「ロータリー」式

ニ依リマスルモノガ、モウ少シ詳シク申上
ゲマスガ、深度二千「メートル」ノモノガ一
本、深度千五百「メートル」ノモノガ五本、
深度千二百「メートル」ノ「ロータリー」式ガ
七本、合計シマシテ十三本デアリマス、ソ
レカラ先程綱式ト云フコトヲ申上ゲマシタ
ガ、其ノ中ニ深度千百「メートル」ノモノガ
三本、深度七百「メートル」ノモノガ二本、ソ
レカラ上總掘ガ十七本、是ハ深度四百「メー
トル」、斯ウ云フ風ニナッテ居リマス

○男爵杉溪由言君 私質問ハゴザイマセヌ

○委員長(伯爵副島道正君) 外ニ御質問ハ

ゴザイマセヌカ……ゴザイマセヌケレバ此
ノ間出淵君カラ委員長ニ、既往ニ於ケル石
油ノ問題ニ付テ、委員長ガ微力ヲ盡シタコ
トヤ何カカラシテ、政府委員ニ質問スルヤ
ウニト云フ希望ガアリマシテ、ソレヲチヨッ
ト躊躇致シマシタガ、併シ矢張り今日御參
考迄ニ申上ゲルコトガ必要ダト思ヒマスカ
ラ、此ノ機會ニ申上ゲヨウト思ヒマスルガ、
速記ヲ止メルノミナラズ、大分政府委員ノ
御答辯ナゾヲ伺フノニ一時間半位要スルダ
ラウト思ヒマスカラ、速記者ニ退席ラシテ

貰フコトニ致シマス

(午後二時三十分懇談會ニ移ル)

午後五時八分懇談會ヲ終ル

○委員長(伯爵副島道正君) ソレデハ懇談

會ヲ閉デテ、再び速記ヲ開始致シマス、是
ヨリ本案ノ討論ニ入ラウト存ジマス、御意
見ノアル方ハ此ノ際御述ヲ願ヒマス

○出淵勝次君 石油ハ申ス迄モナク、産業

上、國防上、誠ニ重要ナル物資デアリマシ
テ、近時我が經濟力ノ異常ナル發展ト國防
ノ強化トニ件ヒマシテ、逐年驚クベキ勢ヲ
以テ其ノ需要ヲ増シツ、アル次第デアリマ
ス、而シテ我が國ニ於ケル之ガ需給關係ハ
ドウカト申シマスルニ、昭和十年度ニ於キ
マシテハ、陸海軍ノ特殊需要ヲ除キマシテ、
總需要量ハ四百五十萬「トン」ノ多キニ達シ
テ居リマシテ、之ニ對シマシテ、國內ニ於
ケル產出量ハ僅カニ三十八萬「トン」、即チ約
八「パーセント」ニ過ギナカッタノデアリマ
ス、今ヤ支那トノ間ニ長期抗戰ニ入ッテ居
リマスカラ、將來ニ於ケル需要ハ一段ト増
加致スベキコトハ豫想ニ難カラヌ所デアリ
マス、然ルニ我が國ト不可分ノ關係ニアル
所ノ滿洲國ニ於キマシテハ、不幸ニシテ未
ダ天然石油ヲ發見スルニ至ッテ居リマセヌ、
又追々我が勢力ノ及ブベキ北支陝西省ニ於

キマシテハ、往年米國企業家ノ手デ以テ、

延長縣ノ油田開發ノ爲ニ、大規模ナル計畫ガ

進メラレマシテ、黄河ノ水運ノ不完全ナル

ニ顧ミテ、遠ク漢口マデ「パイプ」ヲ敷設スル

段取トナッテ居ッタノデアリマスガ、遂ニ全

然失敗ニ歸シ、尙我が國ノ企業家ニ於キマ

シテモ、之ガ開發ヲ圖ツタモノハアリマシタ

ガ、是亦何等見ルベキノ結果ヲ擧ゲ得ナ

カッタノデアリマス、右様ノ次第デアリマシ

テ、我が國ト特殊ノ關係ニ在ル地方ニ於キ

マシテ、差當リ資源ヲ得ルコトガ困難デア

リマスルカラ、此ノ際假令貧弱デアリマシ

テモ、我が國內ニ於ケル資源開發ニ對シテ、

最後ノ拍車ヲ掛ケマスルコトガ正ニ急務デ

アルト思ハレマス、從ッテ此ノ見地カラ致シ

マシテ、試掘助成制度ノ擴大強化ヲ圖ル爲

ニ、本法案ヲ制定セラレマシタコトハ、誠

ニ機宜ニ適シタル次第ト存ジマス、サリナ

ガラ我が國內ニ於ケル產油量ハ、需要ニ比

シテ餘リニモ僅少デアリ、而モ如何ニ開發

ニ努メマシテモ、地質ノ關係上、到底近キ

將來ニ於テ、大ナル結果ヲ見ル望ミナキコ

トハ、少クモ今日マデノ處技術家ノ意見ノ

一致スル所デアリマス、從ッテ結局國內ニ於

ケル採油量ノ増加、人造石油ノ増産、又ハ

ノハナイ次第デアリマス、然ルニ支那事變

ニ伴フ四圍ノ事情カラ致シマシテ、石油業

法ニ規定セル貯油義務ナルモノハ其ノ勵行

ガ自ラ困難トナリマシタシ、又石炭、機械

類ノ價格騰貴及資金融通ノ引締マリト云フ

事柄カラシテ、七億ノ資金、一億ノ獎勵金

ニ依ッテ、七年後ニ、年九百萬「トン」ノ石炭

ヲ利用シテ、二百萬「トン」ノ石油ヲ製出セ

ムトスル所ノ政府既定ノ計畫實行上、著シ

キ障礙ヲ齎スベキ情勢トナリマシタ、人造

石油業ナルモノハ、固ヨリ萬難ヲ排シテ是

非トモ速カニ、何トカ目鼻ヲ付ケナケレバ

ナラスコトハ勿論デアリマスルガ、急速ナ

ル發展ハ誠ニ遺憾ナガラ、先ヅ當分望ミ少

イヤウニ考ヘラレルノデアリマス、從ッテ好

ムト好マザルト問ハズ、専ラ外國ヨリノ

供給ニ俟ツ外ニ致方ナイト思フノデアリマ

ス、外國ヨリ石油ノ供給ヲ受ケマスル方法

ハ、二ツアラウト存ジマス、第一ハ政府ノ

資金融通其ノ他ニ於テ出來得ル限りノ援助

ヲ與ヘテ、我が當業者ヲシテ、廣ク諸外國、

殊ニ南米又ハ南洋方面ニ於テ、資源ヲ獲得

シ、之ヲ開發セシメルコトデアリマス、是

ハ固ヨリ名實共ニ純然タル經濟的基礎ニ於

テ行ッテ、サウシテ國際情勢ノ現情ニ顧ミ

外國ヨリノ供給ニ俟ツ外ニ策ノ施スベキモ

如キコトナキヤウニ、周到ナル注意ヲ拂ハ

ナケレバナラスコトハ申ス迄モアリマセヌ、

併シ此ノ外國資源ノ獲得ト云フコトハ、今

日ノ場合ニ於キマシテ、實現ナカク、容易

ナラザルコトハ御承知ノ通りデアリマス、

ソコデ差向キ北樺太ニ於ケル我が既設石油

會社ニ對シ、政府ニ於カレマシテ親身ニナッ

テ面倒ヲ見テヤリ、適切ナル指導ニ依ッテ其

ノ事業ノ改善發達ヲ圖ラシメ、且出來得ル限

リ資金ヲ融通シテ、アノ品質ノ優良ナル所

ノ石油ノ試掘ヲ進メ、採油ノ増加ニ力ヲ注

ガシムルコトガ肝要デアルト思ハレルノデ

アリマス、元來北樺太ニ於ケル我が石油利

權ナルモノハ、鮮血ニ依ッテ彩ラレタル

歴史の背景ヲ有ッテ居リマシテ、自ラ普通ノ

企業トハ趣ヲ異ニスルモノデアリマスカラ、

政府ニ於カレマシテ確乎タル態度ヲ以テ

「ソ」聯邦政府ニ臨マレ、彼等ヲシテ從來我

ガ會社ニ對シ加ヘ來レル一切ノ壓迫行爲ヲ

速カニ改メシメテ、以テ永遠ニ會社ノ事業

發展ヲ確保スル様最善ノ努力ヲ盡サシムル

コトヲ切望スル次第デアリマス、第二ハ、

政府ニ於テ資金融通其ノ他ノ方法ニ依ッテ、

出來得ル限りノ便宜ヲ與ヘテ、我が當業者

ヲシテ外國當業者トノ間ニ長期ニ互ル賣買

契約ニ依リ、又ハ隨時隨所ニ於ケル取引ニ

依ッテ供給ヲ豊富ナラシムルコトデアリマ

ス、右ノ如ク外國ニ於テ資源ヲ獲得シ、又

ハ外國ヨリ購入スルコトニ依リマシテ、石

油ノ供給ヲ確保シマスルコトハ、國際的經

濟協力ヲ増進シ、現下我が國ノ急務ト致シ

マスル所ノ輸出振興ニ資スル共ニ、延イ

テ我が對外關係ノ改善ニモ貢獻スル所ガ少

カラザルベシト思考スルノデアリマス、政

府近時ノ經濟的施設ヲ見マスルニ、一朝有

事ノ場合ニ備ヘルコトニ焦慮セラル、ノ餘

リ、兎角内ニ需ムルニ專ラデアッテ、外ヲ顧

ミルニ疎カナルノ憾ミガアルノデアリマス、

此ノ際特ニ其ノ點ニ於テ政府ノ深甚ナル注

意ヲ喚起シテ置キタイト存ジマス、最後ニ

一言申添ヘタイコトガアリマス、以上述べ

マシタ方法ヲ盡シテ、内外兩面ヨリ石油ノ

供給ヲ豊富ナラシムルト共ニ、出來得ル限

リ國內ニ於ケル消費節約ヲ圖ルコトガ、方

ニ現下ノ急務ト考ヘラレルノデアリマス、

彼ノ歐洲大戰ノ際ニ殆ド無盡藏トモ言ヒ得

ベキ石油資源ヲ有スル所ノ「アメリカ」ガ、

「フランス」其ノ他ノ聯合國側ニ對スル供給

ヲ慮ッテ、日曜日ニ於ケル自動車ノ運轉ヲ極

度ニ制限シテ、醫者ノ如キ急用ヲ有スル者

以外ノ「ドライヴ」ハ一切之ヲ禁ジタト云フ

心構ヘノ如キハ、我々ノ學ブベキ點デアラ

ウト存ジマス、差當リ政府當局ニ於カレマ

シテ、石油ノ消費節約ニ付テ身ヲ以テ範ヲ

示シ、以テ國民ヲ指導セラレムコトヲ衷心

ヨリ希望スル者デアリマス、私ハ以上ノ意

見ヲ述ベマシテ本法案ニ贊成スル次第デア

リマス

○子爵立花種忠君 只今出淵委員カラ諄々

トシテ巨細ニ互ッテ御意見ヲ御述ベニナリマ

シテ、誠ニ敬服ヲ致シマシタ、是レ以上申

上ゲルコトハナイト存ジマスノデ、極メテ

簡單ニ申述ベテ置キマスガ、本法案ハ現下

ノ重大時局下ニ於テ最モ必須缺クベカラザ

ル所ノモノト思ヒマスルケレドモ、尙我々ノ

望ム所ニ對シテ不徹底ノ憾ミガナイトモ言

ヘナイノデアリマス、政府ハドウゾ昨年ノ

夏ノ議會ニ於ケル本院ノ建議ノ趣旨ヲ體セ

ラレマシテ、尙此ノ上層一層、石油資源ノ

開發ニ付テ努力ヲ拂ハレムコトヲ切望シマ

シテ、本案全部ニ贊成スル者デアリマス

○委員長(伯爵副島道正君) 外ニ御意見ハ

アリマセスデスカ……ナケレバ決ヲ採ルコ

トニ致シマス、本案ニ贊成ノ方ノ舉手ヲ願

ヒマス

(總員舉手)

○委員長(伯爵副島道正君) 全會一致ト認

メマス、ソレデハ是ニテ散會致シマス

午後五時二十一分散會

出席者左ノ如シ

委員長 伯爵副島 道正君

副委員長 男爵松田 正之君

委員

侯爵四條 隆愛君

子爵井上匡四郎君

子爵立花 種忠君

子爵高橋 是賢君

出淵 勝次君

男爵杉溪 由言君

堀 啓次郎君

久恒 貞雄君

松本勝太郎君

絲原武太郎君

小野 耕一君

大西虎之介君

男爵水谷川忠麿君

國務大臣

商工大臣 吉野 信次君

政府委員

外務省通商局長 松嶋 鹿夫君

大藏政務次官 太田 正孝君

大藏省主計局長 谷口 恒二君

大藏省理財局長 關原 忠三君

大藏書記官 松隈 秀雄君

陸軍少將 町尻 量基君

海軍參與官 岸田 正記君

海軍少將 井上 成美君

燃料局長官 竹内 可吉君